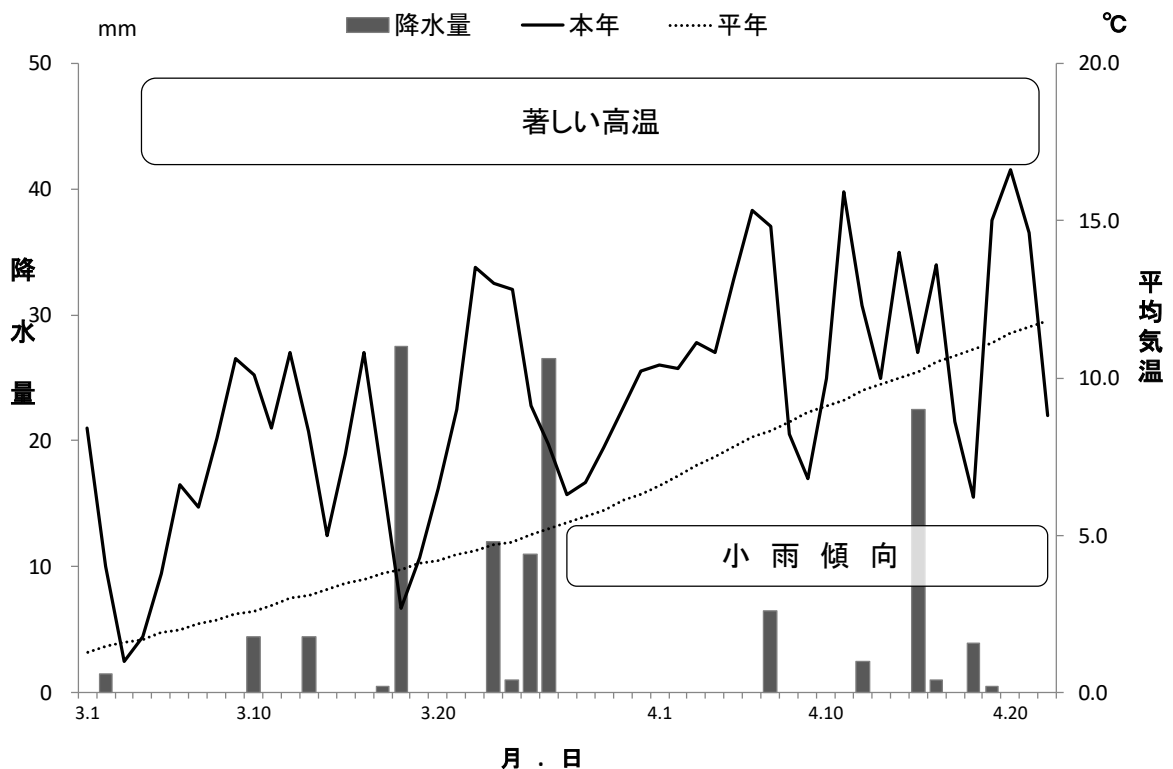


令和5年 作物技術普及情報 第6号 (麦の生育状況・成熟期予測について)

1 気象状況

令和5年 気象経過(穂高アメダス 3月1日~4月23日)



- ・ 4月中旬までは著しい高温が続いていましたが、4月下旬に入ると気温は平年並に落ち着いてきた模様です。
まとまった降雨はありますが全体的には少雨傾向です。
- ・ 4月23日気象庁発表の1か月予想では、気温は平年並かやや低いと予想されています。

2 麦の生育状況

- 4月24日現在、生育の良好な圃場の現在の生育ステージは、以下の通りです。高温の影響で生育は平年より10～12日程度進んでいると思われます。

【大 麦】 出穂期～穂揃い期（管内の出穂は4月15日～4月25日頃で、出穂期のピークは4月20日前後）
【小 麦】 止葉展開期～出穂始期（管内の出穂は4月25日～5月5日頃で出穂期のピークは5月1日前後を予想しています）

3月30日前後、4月10日前後の低温の影響と思われる、葉先枯や葉先の黄化、葉色むらのある圃場が見られます。

穂への障害の有無が明らかになるのは出穂後になりますので、黄化の目だつ圃場は、ご注意くださいようお願いいたします。

- 出穂が平年よりかなり早いため、成熟期も早まることが予想されます。10月下旬播種で、4月15～20日頃に出穂した大麦は、5月末頃から成熟期を迎えると予想しています。

積算気温による成熟期の推定を開始しますのでご活用いただき、コンバインや乾燥施設の稼働準備を早めに進めるようお願いいたします。

成熟期の推定には、出穂期の把握が重要なので、担当される地区の出穂期を把握していただくよう、お願いいたします。

- 成熟期は麦の生育状況や今後の気象状況で前後します。根の生育の劣る圃場や極端にやせた圃場では、予想より成熟が早まる可能性があります。

また登熟期間中に気温が高く、降雨の少ない状況が続くと、予想より成熟が早まる可能性があります（例 平成27年）。

- 出穂ムラの大きい圃場では、成熟ムラも大きくなります（例 令和3年）。今年も収穫開始時期の判断が重要なポイントになると思います。

このため、今後の生育状況にご注意いただき、収穫の目合わせの回数を増やすなど適期収穫に向けた取り組みをお願いします。

【参考】登熟積算気温による大・小麦の成熟期の推定(4月22日現在)

成熟期までの積算気温を大麦は650~700℃、小麦は850~900℃として推定しています。
平均気温は穂高アメダス値です。4月22日までは本年値、以降は平年値を用いています。

月日	平均気温	大 麦			小 麦		
		4月15日出穂圃場					
4月16日	13.6	14					
4月17日	8.6	22					
4月18日	6.2	28					
4月19日	15.0	43					
4月20日	16.6	60	4月20日出穂圃場				
4月21日	14.6	75	15				
4月22日	8.8	83	23				
4月23日	12.0	95	35				
4月24日	12.2	108	48				
4月25日	12.4	120	60	4月25日出穂圃場	4月25日出穂圃場		
4月26日	12.7	133	73	13	13		
4月27日	12.9	146	86	26	26		
4月28日	13.1	159	99	39	39		
4月29日	13.3	172	112	52	52		
4月30日	13.6	186	126	66	66		
5月1日	13.8	199	139	79	79	5月1日出穂圃場	
5月2日	14.0	213	153	93	93	14	
5月3日	14.3	228	168	108	108	28	
5月4日	14.5	242	182	122	122	43	
5月5日	14.6	257	197	137	137	57	5月5日出穂圃場
5月6日	14.8	272	212	152	152	72	15
5月7日	14.9	287	227	167	167	87	30
5月8日	15.0	302	242	182	182	102	45
5月9日	15.3	317	257	197	197	117	60
5月10日	15.2	332	272	212	212	133	75
5月26日	16.9	588	528	468	468	388	331
5月27日	17.1	605	545	485	485	405	348
5月28日	17.2	622	562	502	502	422	365
5月29日	17.4	639	579	519	519	440	382
5月30日	17.5	成	657	597	537	457	400
5月31日	17.7	成	674	614	554	475	418
6月1日	17.9	成	692	632	572	493	436
6月2日	18.0	成	710	650	590	511	454
6月3日	18.2		729	669	609	529	472
6月4日	18.3		747	687	627	547	490
6月5日	18.5		765	705	645	566	509
6月6日	18.6		784	724	成	664	585
6月7日	18.8		803	743	成	683	603
6月8日	18.9		822	762	成	702	622
6月9日	19.0		841	781		721	641
6月10日	19.1		860	800		740	660
6月11日	19.2		879	819		759	680
6月12日	19.4		898	838		778	699
6月13日	19.5		918	858		798	718
6月14日	19.6		937	877		817	738
6月15日	19.7					837	758
6月16日	19.8				成	857	778
6月17日	19.9				成	877	797
6月18日	20.0				成	897	817
6月19日	20.1				成	917	838
6月20日	20.2					937	成
6月21日	20.3					957	成
6月22日	20.4					978	成
6月23日	20.5					998	成
6月24日	20.6					1019	成
6月25日	20.8					1040	成
6月26日	20.9					1061	
6月27日	21.0					1082	
6月28日	21.1					1103	
6月29日	21.3					1124	
6月30日	21.4					1145	

3 麦の病害について

(1) 麦の赤かび病について

- 出穂期から2週間位の間、降雨期間中の温度が高く、降雨期間中の気温が高いほど感染しやすくなります。

また、比較的低温でも降雨時間（穂の濡れ時間）が長いと感染リスクが高まるので注意が必要です。

- 4月22日現在、降雨はあるものの気温が低いため、大麦・小麦ともに感染リスクの高い日はありませんでしたが、これから注意の必要な時期を迎えるので、今後の気象状況にご注意ください。

対応等は別添の「コムギ赤かび病の防除を徹底しましょう」をご参考下さい。

4月22日現在 赤かび病感染リスクの判定
(平22技術情報より作成)

月日	連続 降水時間	降水期間 中の平均 気温	感染 リスク	生育ステージ(推定)	
				大麦	小麦
4月15日	19	10.7	低	出穂 ～ 開花期	
4月16日	3	10.5	低		
4月17日					
4月18日	4	9.0	低		
4月19日	1	9.4	低		
4月20日					
4月21日					
4月22日					
4月23日					
4月24日					
4月25日					
4月26日					
4月27日					
4月28日					
4月29日					
4月30日					
5月1日					
5月2日					
5月3日					
5月4日					
5月5日					
5月6日					
5月7日					
5月8日					
5月9日					
5月10日					
5月11日					
5月12日					
5月13日					
5月14日					
5月15日					
5月16日					

(3) パン用小麦の2回目の追肥について

パン用小麦「ゆめかおり」の出穂が始まっており、まもなく2回目の追肥時期を迎えます。追肥量や追肥の注意点は、前回までの技術情報をご覧ください、適期追肥をお願いします。

注) 一施肥二鳥や追肥一発肥料を使用した圃場は2回目の追肥は不要です。

4 水稻の育苗・本田初期の管理

(1) 育苗管理と本田初期の水管理の徹底

- 4月の著しい高温により、苗の生育も進んでいます。これから田植え作業が開始されますが、育苗ハウス内が高温となりやすい時期なので、引き続きハウス内の換気を十分行うようにお願いします。
- 移植後は3～4 cmのやや深水管理として、強風や低温による植えいたみを防ぎ、新根が出て活着したら、2～3 cmの浅水管理とするなど、移植後の水管理には細心の注意をはらい、活着促進のため水管理の徹底をお願いします。

(2) 除草剤の処理について

- ジャンボ剤や250 g剤（豆つぶ剤）などの少量自己拡散型の除草剤が使用されることが多くなってきました。このような除草剤を使用する場合は、水深を8～10 cm程度に深くしてから除草剤を処理することが、効果を高めるポイントになりますので、処理時の水深には気をくばるようご指導をお願いします。
- 水管理が不十分で雑草が残ったり、再発生する場合があります。特にヒエやホタルイは葉令が進んでから気づく場合が多いです。このため除草剤処理から7日後位には、圃場状況を必ず確認するようにお願いします。残草状況によっては、中期剤の対応をお願いします。

(3) 農薬誤用防止と除草剤処理後の水管理の徹底について

- 毎年、苗箱施薬剤と除草剤を取り違える事例が発生しています。誤用防止や、除草剤散布時期の確認について、十分な注意喚起をお願いします。
- 水管理の不徹底（水口の閉め忘れ等）により、畦から田面水がオーバーフローするなどのトラブルが報告されています。水管理の徹底については、十分な注意喚起をお願いします。